

## 2025 年度 学校関係者評価

諮問委員会開催日時：令和7年12月18日（水）10時30分～12時00分

### 1. 学校関係者評価諮問委員

島根県立大学大学院 看護研究科看護栄養学部 元教授

看護学校非常勤講師、元看護管理者、教員・卒業生

浜田市健康福祉部 地域医療担当課長（代理 健康医療対策課地域医療 担当係長）

浜田医療センター 看護部長

学校職員 11名

目標	査定 A	査定 B	査定 C	査定 D
<b>1. 学習に向かい確かな知識と技術、社会性、誠実性を身につけられる教育</b>				
1) 学習する集団への変革	4	3	4	4
2) 物事に立ち向かい継続する力の育成	4	3	4	3
3) 人を大切にできる情意の育成	4	3	4	4
<b>2. 機構および地域へ貢献できる看護職員の育成</b>				
1) 浜田の地域医療・看護に興味関心が持てる学習支援	4	4	4	4
2) 看護師国家試験合格率100%の継続達成	4	4	4	4
3) 各学年で学力を見極めた支援の実施	4	4	4	4
4) 浜田医療センターや国立病院機構、または県内に貢献できる看護職員の輩出	3	4	4	4
<b>3. 学ぶ意欲があり地域医療を志す入学生の確保</b>				
1) 浜田医療センター附属看護学校の教育力の発信、知名度の向上	4	4	4	4
2) 地域への効果的なPR活動の実施	4	4	4	4
3) SNS・HPの効果的な運用	4	4	4	4
4) 受験生が受験しやすい体制づくり	4	4	4	4
5) 留学生対応の基盤づくりと広報への反映	3	3	4	3
6) 学生生活を充実させるための要望版の継続と古民家などの開拓	3	3	4	3
<b>4. 教職員が仕事にやりがいを持ち働ける職場づくり</b>				
1) 働きやすい職場づくり	4	4	4	4
2) 看護教員・事務職員としての能力開発	4	4	4	4
3) 転勤などで誰に変わっても継続できる組織作り	4	3	4	4
<b>5. 看護学校の健全経営</b>				
1) ドロップアウトの未然防止、入学料・授業料・施設管理料などの徴収	4	4	4	4
2) 補助金の確保	4	4	4	4
3) コスト管理	4	4	4	4

評価基準：「4」：大いに達成できる（大いに成果がみられる）

「3」：達成できる（成果がみられる）

「2」：あまり達成できない（あまり成果がみられていない）

「1」：まったく達成できていない（全く成果がみられていない）

## **1. 学習に向かい確かな知識と技術、社会性、誠実性を身につけられる教育**

入学時からの動機づけ、1年次からの学習支援、模擬試験やポートフォリオを活用した学習の可視化などにより、学習習慣の定着と基礎学力の底上げが図られている。図書室やICT環境の整備、スマートグラス等を活用したDX演習により、技術評価点の向上や主体的な学習行動も確認されている。また、年2回の定期面談やカウンセラーとの連携によるメンタル支援、教職員全体で学生を支えるメンター体制が整備され、学生満足度調査では多くの項目で最高点になっている。一方で、学習理解や教育の「質」を数値以外でどのように評価し、改善に結びつけるかは今後の課題であり、客観的な質評価の仕組みづくりが求められる。

## **2. 機構および地域へ貢献できる看護職員の育成**

地域医療を学ぶ民泊実習や診療所実習などの実践的カリキュラムは、本校の大きな特色であり、母体病院や実習施設との連携も良好に維持されている。国家試験については、近年の教育改善の成果として全員合格を達成した。退学率も全国平均を大きく下回り、学生支援体制が機能していることが示されている。

一方で、学力差のある学生への支援や、学年特性に応じた教育方法の見直しは引き続き重要であり、学校の土日開放や個別支援をより効果的に活用する工夫が必要である。

## **3. 学ぶ意欲があり地域医療を志す入学生の確保**

DX教育の推進や看護系雑誌への投稿、SNSを活用した積極的な情報発信により、教育力と知名度の向上が図られている。オープンスクール参加者数から広報活動の成果が得られている。また、ボランティア活動への参加実績からも地域とのつながりがうかがえる。

学生確保が厳しい環境の中でも、定員確保をほぼ達成している点は高く評価できる。

今後は、入学動機の把握や広報効果の分析を進め、より戦略的な募集活動につなげることが課題である。また、留学生受け入れの基盤整備を進めつつ、多様な学生が学び続けられる体制の充実が期待される。

## **4. 教職員が仕事にやりがいを持ち働ける職場づくり**

業務分担の明確化や非常勤教務助手の配置により、教職員が協働しやすい体制が整えられている。年次有給休暇の取得状況は全国平均を大幅に上回り、働きやすい職場環境の整備が進んでいる。また、TNADを活用した能力開発や研究活動の活性化により、教育の質向上と教職員自身の成長が図られている。一方で、年休取得の個人差や事務体制の脆弱さなど、組織としての持続性を高めるための改善余地も残されている。

## **5. 看護学校の健全経営**

授業料等の適正な徴収、退学防止による学生数の維持、補助金や研究費の継続的な確保により、経営は安定している。業務の会議資料などの電子化や合同カリキュラムによるコスト削減も着実に成果を上げており、健全で効率的な運営が行われている。今後は、経費削減効果の可視化や入試動向を踏まえた柔軟な対応を継続することが求められる。

総合評価として、学生一人ひとりを大切に育てる姿勢を基盤に、教育の質向上と地域貢献を着実に進めている点が高く評価できる。教員と学生の雰囲気からも学校の良さはわかる。今後は、教育の「質」をより客観的に捉える評価方法の検討と、教職員・非常勤講師を含めた教育力の底上げに取り組むことで、さらなる発展が期待される。